

一年生の一日

～小学校生活の一部を伝えるための実践～

概要

町の推進委員会で同じグループになった職員から、年長のクラスの子どもたちが、「ランドセルの中には何をいれるんだろうね」と話しているという話題が持ち上がった。それならば、小学校で一年生の生活の様子を動画や写真で撮影し、DVDにまとめて町内の幼児教育施設でみてもらったらどうかということで、取り組むことにした。

参加者 私立幼：おおぞら保育園 23名、私立保：コビープリスクールさかい 10名

小学校：境町立境小学校 1年生 69名

準備 ・行事や日常生活、学習の様子を写真に撮っておく。

・音声を録音する児童を決めておく。

■「一年生の一日 紹介DVD」

【動画の内容】

- 登校してからの朝の活動
- ・アルコール消毒してから教室に入る。
- ・ランドセルをおろして、中のものを出し、机にしまう。
- ・宿題などの提出物を出す。
- ・係のお仕事の様子
- 朝の会の様子
- 境小学校の校歌
- 学習の様子（英語の授業、アサガオの観察）
- 生活科校外学習の様子（さくらの森パーク）



■視聴後の感想

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・一日の活動の様子を想像しながら見る事ができた。
 - ・小学校での生活を不安に思っている子どもたちもいるので、とても参考になった。
 - ・卒園児の様子を見る事ができたので、がんばっている様子を見る事ができてよかった。
- 小学校教員の意見から
 - ・一年生は、「誰が見るのかな」「幼稚園の先生たちもみるのかな」と会話しながら、動画を見る相手を思い浮かべながら声の録音などを行った。
 - ・分かりやすく伝えるように話し方を工夫する様子が見られたので、実際に会うことができないけれども相手を思いやる気持ちを持つ事ができたと考えられる。



感染症対策でICTの活用が進んだので、コロナ禍であっても、内容を変更したり、オンラインや動画など交流の方法を変えたりすることによって保幼小の交流が可能であると思った。今後も、オンラインや少人数での保育参観、授業参観などを計画し、子どもたちのために積極的に進めていきたい。

保育園の園児と花育体験教室へ参加

境町立長田小学校の実践

保幼小連携の一貫として、境いずみ保育園より交流のお話をいただいた。1年生が年長児と活動することも考えられたが、今回は来年度の最高学年として、5年生が参加した。

参加者 境町立長田小学校：5年生57名、境いずみ保育園：年長児30名

準備 花、土、プランター等は、全て花育体験教室側で準備

令和4年7月5日

主催 いばらきの花振興協議会

■ 体験教室の実施

保育園の年長児を迎え、あいさつとグループ作りをしてから開始した。講師の紹介では、花の名前や特徴なども教えていただいた。

花の植え方では、一つ一つ段階をおって丁寧に指示を出していただき、子どもたちは熱心に話を聞いて取り組むことができた。5年生2人と年長児1人の3人組で行ったため、始めは緊張している様子も見られたが、作業していくうちに打ち解けているグループもあった。相談しながら進めたり、優しく教える場面があったりと、温かい雰囲気の中で行うことができた。

また、熱中症対策として、開始時刻を早くする、ミストシャワーや打ち水をする、日陰での作業にする等、様々なことを考え実施した。

出来上がった寄せ植えのプランターは、学校と保育園で育てている。



■ 体験を終えての振り返り

○ 担当の意見から（小学校）

- ・花を植える活動が簡単で、子どもたちが自信をもって教えてあげられた。
- ・自分たちより幼い子に対して、「しっかり見本にならないと。」という姿勢がうかがえた。
- ・子どもたちの温かい心が引き出されたように感じた。

○ 担当の意見から（保育園）

- ・専門職の方に教えていただき一つ一つ進めたので、園児でも分かりやすかった。
- ・小学生がリードしてくれ、最初の緊張もほぐれてたくさんの笑顔が見られた。
- ・一緒に活動できて、貴重な経験だった。

○ 子どもたちの意見から（5年生）

- ・仲良くできた。名前を聞いたらずいぶん慣れてくれて、嬉しかった。
- ・来年、自分たちを覚えてくれていたら嬉しい。
- ・花のことをたくさん知れたし、ちゃんと植えるのが初めてで楽しかった。
- ・家でもやってみようと思った。
- ・心がきれいになったみたい。
- ・「楽しかった人？」と聞かれたとき、一緒にやった子が手を挙げてくれて嬉しかった。



○ 今後の課題等

- ・暑い日の実施だったため、熱中症対策をしたが、時期や場所について検討が必要だと感じた。
- ・出来上がった寄せ植えの世話と管理が難しいと感じた。



今回の体験教室を通して、5年生が高学年として責任をもって活動する、自分より年下の子に対して優しく接する様子が見られた。年の近い子とは普段の学校生活で過ごしているが、年の離れた子との交流は、実りあるものとなった。初めての試みだったが、保幼小連携の機会として実施することができ、よかった。交流をするときには、時期と場の設定、参加する児童の検討をしていきたい。

スタートカリキュラムを意識した生活科「えんのせんせいにしらせよう」 猿島小学校の実践

生活科「みんななかよし」の学習活動として、入学してから今までに体験したことやできるようになったことを卒業園の担任の先生にはがきで知らせる活動を行った。児童は、お世話になった先生に報告できる達成感と、成長を喜んでもらえる満足感を得る体験ができた。

参加者 猿島小学校 1年児童 31名
準備 入学してからまでの生活体験や学習活動を振り返る(生活科カード、写真 等)
はがき 手紙の書き方パンフレット(郵便局発行)

■スタートカリキュラムの実践

★生活科「みんななかよし」

(1) ともだち 100人大さくせん

① 2年生からの招待

1年生も興味津々で調理台や骨格標本を見学していた。その後、校庭で楽しく遊び、親睦を深めた。



② 6年生との交流

6年生に励まされることで、練習時より記録が伸びる児童が増えた。別日には、6年生の企画でグループ遊びを実施し、さらに親睦が深まった。



③ 先生となかよし大作戦

「学校には、どんな先生が、どんなお仕事をしているのかな？」という疑問から始まり、休み時間等を使って学校中の先生方に声をかけた。



(2) いきもの・花となかよし

アサガオの種をまき、一人一鉢でお世話を始めた。また、東武動物公園遠足では小動物に触れ、その温かさややかさを体感した。



(3) えんのせんせいにしらせよう

「園の先生にもできるようになったことをお知らせしたいな。」

はがきっておもしろいな。

お手紙に書こうよ。



国語で、詳しく書くことを学習したよね。



逆上がりができるようになったよ。

足し算引き算ができるよ。

お返事が来たよ。嬉しいな、これからもがんばろう。



児童は、入学してからの3ヶ月で数々の学習体験をし、それらの体験から得た知識や技能を教員や家族に話す機会が多くなった。また、郵便局からいただいた学習用のはがきを使い、郵便について触れると、「園の先生方にはがきで今の様子を知らせたいな。」と自発的な活動として単元に組み込むことができた。また、入学当初から、話すことを中心に学んできた国語科の内容を生活科にも生かすことで、合科的、関連的な指導ができ、学びを生かすことの楽しさも実感することができた。今後も、園との交流を通して「自発的な学び体験」を増やし「確かな学力」「深い学び」につなげていきたい。

幼児期に育まれた姿や生活のつながりを意識したスタートカリキュラム

児童が安心して小学校生活をスタートできるよう、園との情報交換を反映させたスタートカリキュラムの実践に取り組んでいる。入学前に行う引き継ぎの話合いや保育者から知り得た情報を加味してカリキュラムの内容を見直し、計画・実践している。また、知り得た情報は職員で共有し、児童理解や指導に生かしている。

参加者 森戸小学校児童25名

準備 保育者からの情報、絵本、算数教科書、算数ブロック

■授業や生活指導を通じた実践

○読み聞かせ

朝の会や帰りの会、授業などで読み聞かせを行っている。児童が好きな本や国語の教材に関連する本などを中心に読んでいる。



○数しらべ

算数「10までのかず」では、幼児期に園で畑の農作物を収穫し数えた体験をふり返りながら、野菜をブロックに置き換えて数調べを行った。



○集中力を持続させるために

授業開始時や静かに聞いてほしいときは、手遊びやストレッチなどをして気持ちを切り替え、集中して取り組める支援をしている。



■実践をもとにした検討

児童は、読み聞かせが大好きで、毎回楽しみにしている。今後も児童の実態に合わせた本選びをしていきたい。また、算数の授業では、児童が幼児期に体験した野菜収穫の喜びを共感しながら、教科書の挿絵にブロックを置いて楽しく数を数えることができた。これからも園との連携を図り、経験してきたことを学びに繋げていきたい。児童を集中させたいときは、手遊びやストレッチなどを行った。楽しく気持ちを切り替えることができた。小学校生活スタート時の児童にとって、園での習慣を取り入れることは、安心感につながることを実感した。

まとめ

小学校1年生は、新しい環境での生活に期待と不安が入り混ざって入学してくる。児童の不安を少しでも和らげ、安心して学べるような配慮が必要である。今後も、園との情報交換を密に取り、児童が小学校生活に希望をもち、安心して学び、チャレンジしていけるような支援をしていきたい。10月には、認定こども園はなぶさと相互授業参観を行う予定である。

幼児期に育まれた姿や生活のつながりを意識した スタートカリキュラム 境町立静小学校の実践

学校生活の仕方 令和4年4月8日(金)から
スタートカリキュラムに合わせ、入学式翌日から、児童自ら主体的に、安心して、朝の用意ができるように工夫した実践

参加者 境町立静小学校：児童14名

準備 ・朝の準備の仕方を書いたカード・提出物が分かるよう写真を添付した提出用のかご
・ロッカーの入れ方が分かるように6年生児童が描いたポスター

■スタートカリキュラムの実践

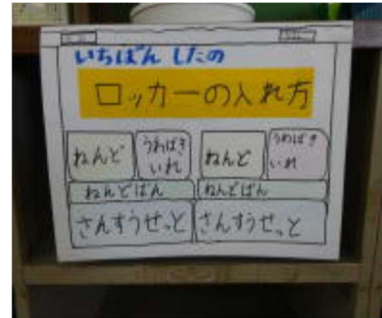
【学校生活の仕方・・・令和4年4月8日(金) 入学式翌日、朝の用意をする児童の姿】
(幼児期に育ってほしい子どもの姿②・③と関連)



(朝の用意の仕方の順番を掲示)



(かごに提出するものの写真を貼付)



(ロッカーの入れ方を掲示)



■実践をもとにした検討

※小学校3校、幼児教育施設1校のグループで「接続期に育って欲しい子供の姿を見据えて、どのような接続カリキュラムを進めているか」との視点で協議を行った。

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・保育園では、カルタ遊びや絵本の貸し出し、おまつりの看板の文字を書くことなどを通して、文字に親しみ、興味をもてるようにしている。
- ・指示されている事柄に写真やイラストなどが入っているととても分かりやすい。

○小学校教員の意見から

- ・「朝の用意」の順番を示したカードは、児童の活動に有効である。本校では、カードにイラストを入れる工夫をしている。
- ・かごに連絡帳の写真を添付してあるのは参考にしたい。支援が必要な児童や外国籍の児童にとってよい方法である。

朝の用意の手順が分かり、児童自ら進んで行うことができた。そのため、落ち着いた態度で朝の会から1時間目の授業へとスムーズに取り組んでいくことができた。

遊びの中で学ぶ力、数、文字への関心をもつ ～こどもまつり～

- ・こどもまつりの、のれん製作(グループで話し合い、絵や文字を書く)
- ・看板づくり
- ・異年齢児との交流

参加者 ひまわり保育園:13名

- 準備**
- ・こどもまつりがあることを伝える
 - ・5種類のお店屋さんがあること、その店番役を行うことを伝える
 - ・画用紙、クレヨン、折り紙、筆などを使用

■ 園の行事 「 こどもまつり 」

- ・グループでお店の品物の色や形、種類など友達と話し合いをし、イメージを膨らませながら製作する
- ・のれんは、クレヨンだけでなく折り紙を使い表現する
- ・品物の名前を子ども達全員が一文字ずつ挑戦する。消極的な子には、手本を見せながら、ゆっくりと挑戦し文字に興味をもたせる
- ・おまつり当日は、異年齢児とふれあい優しく接したり品物が少なくなったら補充を自主的に行う
- ・こどもまつりが成功したことに達成感、満足感を味わう
- ・大きな用紙に太い筆で大きく文字を書き看板をつくる



■ 実践をもとにした意見交換

コロナ感染予防のため、電話にて意見交換しました。

○ 小学校教員の意見から

- ・遊びの中で楽しく文字に触れ親しめて、とても良いと思います。
- ・初めから小さなマスに書くより大きな用紙に太い筆で、のびのび書くことができ大変良いと思います。
- ・書き順だけは正しく教えてほしいです。

行事の中に子ども達自身が書いた看板や、のれんが掲示され役に立ったことに子ども達も自信を持つことができ満足感を味わうことができました。また今後の行事の時に、またやりたい、書きたいと「次へ」の気持ち、意欲を育てていければと思います。

小学生と一緒に花育！ ～初めての寄せ植え体験～ 認定こども園の実践

取り組みの概要

児童1～2名に対して幼児1名の3名1チームを基本とし、1チームで2鉢の寄せ植えを実施

参加者 私立こ：30名、小学校：57名

準備 いばらきの花振興協議会へ花育体験教室参加希望の申請
撮影禁止となる児童、幼児の確認と共通理解

■寄せ植えの実践にあたって

コロナ禍以降、感染拡大を防ぐために直接の交流を制限してきた。感染症の状況を考慮すると小学生と一緒に活動できること自体が貴重な経験であるため、機会を有効に活用できるよう子ども達の気持ちを盛り上げていけるよう声をかけ、花壇の水やりや日々の野菜の収穫を通して植物に関心を高めていけるようにしていった。

普段は関わることの少ない小学生との直接的な交流、共同作業により、【接続期に育ててほしい7つの「子どもの姿」】（茨城県教育委員会）の（4）、（6）【幼児期の終わりまでに育ててほしい姿10項目（46細目）】の23番や29番、37番のような、自然や他者との関わることによって育まれていく学びの入口に繋がっていくことが期待される。



■実践をもとにした検討

○こども園保育者の意見から

- ・最初は緊張している様子が見られたが、小学生のリードで徐々に緊張がほぐれ、たくさんの笑顔を見ることができた。保護者からは、帰宅後も嬉しそうに話してくれたとの声があり交流の機会を持ててよかったと思う。寄せ植え後は、今まで水やりをあまりしていなかった園児も積極的に水やりをする姿が見られ、関心の幅が広がったことがうかがえる。

○小学校教員の意見から

- ・とても暑かったが、暖かい雰囲気の中で交流することができた。また、花を植える活動を通して、子ども達の温かい心が引き出されたように感じた。

今回の交流を通し、植物への興味・関心は交流前よりも高まった。また、園内で最高学年である子ども達がお兄さんお姉さんに温かく迎え入れてもらえたことは、園児にとって貴重な経験であり、就学への希望となったのではないかと考えている。

コロナ禍で交流の機会が大幅に制限されていたが、屋外で実施するなど工夫しながらなるべく交流の機会を設けられるようにしていきたい。

時間・数字・数 を意識した生活

～認定こども園 はなぶさ の実践～

概要

- ・数を意識し数字に興味を持ち始める(大小・多い少ない・数を数える・1～10の順番)

参加者 認定こども園 はなぶさ 5歳児 57名

準備

- ・ひらがなとすうじのワーク ・時計 ・タイマー など・・・

「 数や数字を意識した生活 」

- ・時間を決め時計を見ながら意識して活動する。
- ・おやつを配る際、出席している子の人数分だけお皿を準備する。
- ・数を数えながら和太鼓を叩く。
- ・数字の順番を意識しながら点繋ぎ(線繋ぎ)を行う。
- ・時間を意識して動けるように、長針・短針の指す位置を分かりやすく知らせる。
- ・タイマーを使って活動時間を知らせている。
- ・時の記念日を機に世界で1つだけの時計制作を行ったことで、数字に興味を持ち時間を意識する子が増えた。



出席人数分の皿を並べる



収穫した野菜の数を数える



世界に1つだけの時計



タイマーを使って
時間を意識する

○ 小学校教員の意見から

- ・野菜やアサガオの栽培、生長観察を通して、種やつぼみ、花の数を数える。
- ・おはじきやブロックなど、物を使って数を視覚的に数えていく。
- ・活動時間は、始まりと終わりの時間を時計を使って視覚的に見せている。
- ・タイマーを使って視覚的に確認できるようにする。

まとめ

就学に向け、数の数え方や時間の知らせ方など、小学校との取り組み方の差があまりなく安心した。今回、幼小連携・接続実践事例を作成することにより、小学校の先生と意見交換をする機会を持つことができとても良かった。今後も小学校での取り組み方を参考にしながら、保育に活かして行きたいと思う。

「段差」のない学びを得るために

～なだらかな学びとともに・・・～

保育園で習得できたものが、小学校での学習にどれだけ反映されているか。

また、就学後スムーズに生活を送るための学びをともに考え、実践していく。

参加者 おおぞら保育園：園児23名（5歳児） 担任保育士：1名

準備 境小学校から頂いたDVD 他

■スタートカリキュラムの実践

★境小学校から頂いたDVD鑑賞会（いちねんせいのいちにち）



1年生はどんなことを
するのかな…ドキドキ

境小学校1年生の普段の学校生活を拝見。

ひとつひとつに目を輝かせる子ども達でした。

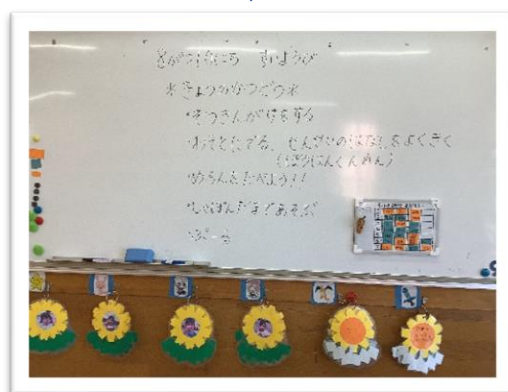
DVD 鑑賞後・・・ ↓ さまざまな活動にチャレンジ！！

★1日の予定を発表！！

子ども達の目安になります。

みんなで共通理解します。

子ども達も真剣



英語の学習にも取

り組んでいます。

疑問点は質問します👉

『みんなの前で発言できることはすごい事』

と子ども達にも伝えていきます。

